

第1分散会報告

【発送について】

- ・分会発送物は電子化の活用を求める声を上げるほか、引き続き紙での発送を求める声もあった。できるだけ負担にならないありかたを模索してほしい
- ・書記長から発送を各週にしたり、メールで送ったりするのはどうかという投げかけがあったが、分散会ではまとまらず、本部で議論してほしいとのこと。

【組織拡大について】

- ・組合に意義を感じない若手が増えている。時間外労働が多い中で組合のアプローチが見えづらい、入ることによって逆に多忙化してしまうことが原因か。
- ・委員長が他団体の様々な役職を兼任しており、思想的な観点から組合に入りづらくなっている。組合に加入することの強みを訴えることが大切。また、労働条件に関する活動以外のものは精選が必要。

【部活動について】

- ・部活動は時間外労働の原因になっており、早急に対応すべき。一方、地域化については教員自身が各スポーツ団体とズブズブの関係になっており、組合として各団体との対話の場を持つことが必要。合わせて地域の受け皿を作ることが最優先の課題。
- ・部活のメリットは生徒の成長につながることであり、自分は部活のために教員になった。やりたい教員が続けられる仕組みづくりも必要。
- ・部活顧問を続けるには、特勤手当の増額が不可欠。

第2分散会報告

【発送について】

- ・分会活動の手引きだけでは読み取れない部分がある。発送物の扱い方や保管の仕方など、基本になることをもっと伝えるべき。

【組織拡大について】

- ・他県で教員経験がある方からすると、長野の組合規模は大きく感じられるが、生徒・教員が減っていく中で組合員数も自然減となり、その分組合役員の負担も増えるのでは。
- ・未組や脱退者の声として「勤務労働条件だけを扱うべき」という声が多い一方、「組合が勝ち取ってきたこれまでの成果は、労働者としての面だけでなく教育条件改善といった面もある」という声も。

【部活動について】

- ・部活顧問は負担が大きいですが、コロナ禍により部活がなくなって自分の時間が増えた。
- ・部活については無賃で労働している実態もあり問題。
- ・部活動の問題は、給特法によるところが大きく改正を求めることが必要。
- ・部活動が生徒指導につながる面もあり、地域移行に関してどのような制度になるのか不安もある。

第3分散会報告

【発送について】

- ・発送物については、メールや電子データでは忘れがちになってしまうため、定期的に発送してもらうことは大切。

【組織拡大について】

- ・組合に入らない理由として、若手は横につながる意識がなく自分のやりたいことを優先しているからでは？
- ・組合加入を呼びかけて断られたとしても、粘り強く対話を続けることが大切。
- ・脱退者へのケアや聞き取りも必要。

【部活動について】

- ・部活について負担を感じる教員が実態調査からも明らかになっており、顧問を強制されている。
- ・部活動については、もっと労働問題として扱うべき。
- ・部活動の地域化といっても、地域に任せることが本当にできるのか？
- ・部活の話をしていくと組合でも学校でも分断を生んでしまうため、やりたい人がやり、やりたくない人がやらなくてもよい制度にすべき。

意見交流

- ・組織拡大について、「変わるのは組合」から。前例踏襲をやめて、「去年もやったから今年も」を変える必要がある。
- ・本来の組合のあり方からずれてきている。思想的な活動が悪目立ちしており、そうした活動が主になるのは労働組合としての本質ではない。
- ・部活に関わって、地域化の予算については組合から訴えていくべき。予算のことを心配して権利が主張できなくなるのはおかしい。
- ・R5年の地域化に伴い、自分も副業をやりたいと思っているが、論点の整理ができておらず、組合が主導して議論すべきではないか。この問題について組合の対応が遅く、新採者に組合の魅力が伝わらない。「権利を訴える組織」という趣旨がぼやけてきている。
- ・部活については、「意義がある」という観点で議論すべきではない。部活によって休日が奪われるということは皆がわかっている。「顧問を持たない」という選択を組合としてバックアップしていくべき。今は「顧問を持たないほうが当然」という価値観が普通になってきている。
- ・土日に部活をやりたい生徒もおり、それが将来の職業につながることもある。時間外が問題なのであれば、平日の教員（顧問）の持ち時間にゆとりを持たせるなど工夫すべき。部活をやりたくない人の意見に偏重すべきではない。
- ・時間外の問題については、そもそも給特法を変えるべき。
- ・組合の制度を知らないで文句を言う人が多い。組合に関しては、例えば「ユニオンショップ」のような問題は表裏一体のもので、「組合って何だろう」ということを改めて議論すべき。
- ・部活について、「部活をやるために平日の授業時間を配慮する」というのはおかしい。我々はあくまで教員として生徒の学力に利するべきであって、部活のために採用されたわけではない。全教職員が納得できるあり方を模索すべき。部活をやりたくない人の意見の偏重ではなく、むしろ今は部活をやりたい人の声に偏重している。部活を否定しているわけではないので、分断を生まないように議論を進めるべき。